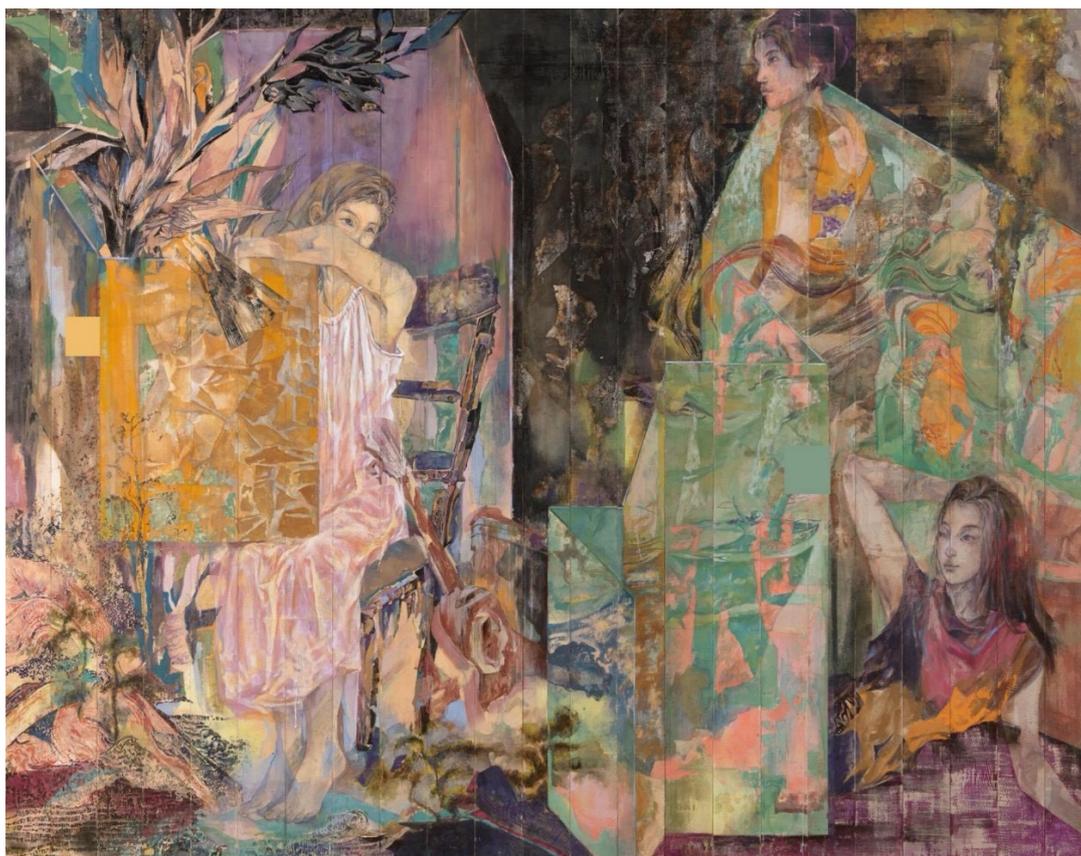


美術専攻 日本画研究領域

ソン ゲンエン

孫 元園



まだ消えない

天然染料、岩絵具、銀箔、綿布

まだ消えない

本作品は、「異空間」の表現をテーマとして制作したものである。ここでいう「異空間」とは、日常における記憶・感情・時間、そして素材の層、複数の次元、それら全てが共存するような空間を指す。私は日本画の伝統的な構成要素である屏風を現代的な方法で再解釈し、描かれた空間中に区切りを設けることで、画面上に「空間」の断絶と連続を同時に生み出そうとしている。

「日常の風景」において記憶は作品の重要な要素である。描かれている人物や家具、植物などは身近な日常にあるモチーフだが、配置やスケールを意図的にずらしている。そのずれは、経験と結びついた記憶や感情の層を可視化したことにより生じている。日常的な光景の中に、無意識の記憶や内面の風景が重なる瞬間を描こうとした。

画面には、表現素材による物理的な層が存在しており、それは、染料や岩絵具、紙などの重なりから生み出される。染料のにじみや布の透けが偶然の形を作り出し、その不確定さが描かれた空間に奥行きと深みを与えることで、現実とは異なる感覚をもたらす。これにより、絵肌そのものがひとつの「多層の空間」として機能すると考えている。

この構成は、日常生活の中で感じる「間」や「静けさ」の感覚を視覚的に表す試みであり、記憶の時間を内包するような表現を目指した。「屏風の構成」を用いることで、屏風の折れや屏風による区切りを表現できる。それによって描かれた場面が連続しながらも断絶しているような印象を作り出した。

このように、「日常の風景」「多層空間」「屏風の構成」を融合させることで、現実と記憶のあいだに存在する「異空間」を表現した。私にとって絵画制作とは、現実を写すだけでなく、内面の記憶や感情を多層的な空間として構築する行為であり、その試みが本作の核となっている。